

第3号様式（第4条第1項）

平成28年6月23日

君津市議会議長 安藤敬治様

経済環境常任委員会
委員長 高橋 明

行政視察結果報告書

君津市議会行政視察取扱要綱第4条第1項の規定により、次のとおり報告書を提出します。

記

- 1 期 日 平成28年5月2日（月）
- 2 視 察 先 茨城県つくば市（有限会社 ワールドファーム）
- 3 調査事項 農地集積による企業誘致について
- 4 参加議員 高橋 明、船田 兼司、安藤 敬治、下田 剣吾、
榎本 貞夫、磯貝 清、小林 喜久男
- 5 経 費 裏面のとおり

経済環境常任委員会 行政視察経費

① 高速料金	6, 4 9 0 円
② 視察先土産代	3, 0 0 0 円
③ 車賃	9, 4 5 0 円
合 計	<u>1 8, 9 4 0 円</u>

(有) ワールドファーム

日 時：平成28年 5月2日 (月) 午後1：30から3：30

場 所：(有) ワールドファーム (茨城県つくば市谷田部 3395-1)

出席者：農業生産法人 (有)ワールドファーム 幕内進会長

1. 農業生産法人 (有) ワールドファームの概要について

社 名	有限会社ワールドファーム
本社・茨城工場	茨城県つくば市谷田部 3 3 9 5 番地 1
熊本工場	熊本県菊池郡大津町真木 4 3 7 番地
熊本第2工場	熊本県菊池郡大津町真木 5 7 9 番地 1
大分支店	大分県竹田市玉来 1 2 2 番地
鳥取支店	鳥取県倉吉市関金町郡家 7 2 1 番地 6
設 立	平成 12 年 1 月 26 日
資本金	5,500 万円
役 員	代表取締役 上野裕志
年 商	7 億 600 万円
取引銀行	常陽銀行・茨城県信用組合 肥後銀行・日本政策金融公庫等
主要取引先	(株) アクリフーズ/ライフフーズ (株) / (株) アイガー (株) ハウディ/美野里フーズ (株) / (有) エスグリーン (株) 朝明商事
営業科目	<ul style="list-style-type: none">● カット加工野菜● 冷凍加工野菜● 乾燥加工野菜

有限会社ワールドファームは、より安全で安心な野菜が食卓に届くよう全社員一丸となって農産物の生産から加工・販売までに取り組んでいる。特に、昨今の輸入加工食材の問題等をみても、これから国産野菜の重要性が増すところであるが、長期的にみて農業の担い手不足の問題や農業を地域の産業として起こす問題など、現実的には多くの問題があり、なかなか国産野菜を生産するには難しいのが現状である。

こういった様々な農業に関する問題の解決に取り組み、食卓により安全・安心な

食べ物が届くよう業務に励んでいる。

2. 調査事項について

農地集積による企業誘致について（儲かる農業について）

- (1) カット野菜や冷凍野菜の生産・加工・販売の6次産業化による農業の高収益化
- (2) 20代から30代を正規雇用し、数年間を掛けてプロ農家としての技能の習得など、新たな担い手の育成の取組
- (3) 圃場で農作業行う社員が場所を変え、カット工場での勤務を行うことでの雇用の安定化の取組



同じキャベツでも粗利率は12倍!

「生鮮品」と「カット野菜」との収支比較(10a当たり)

キャベツ「生鮮品」の場合				キャベツ「カット野菜」の場合			
		金額(円)	構成比			金額(円)	構成比
売上高		390,000	100%	売上高		672,000	100%
製造原価	農業原価			製造原価	農業原価		
	地代、種苗、肥料	53,760	13.8%		地代、種苗、肥料	53,760	8.0%
	人件費	150,000	38.5%		人件費	150,000	22.3%
	経費	47,040	12.1%		経費	47,040	7.0%
出荷費用	梱包費	66,000	16.9%	原工 価格	人件費	0	0.0%
	運送費	60,000	15.4%		経費	152,400	22.7%
売上原価		376,800	96.6%	売上原価		403,200	60.0%
粗利益		13,200	3.4%	粗利益		268,800	40.0%

*売上高=反収(10a当たり)の収穫高) 6000kg×65円/kg

*売上高=反収3000kg×140円/kg ×歩留まり率80%

20倍!

3. 圃場視察先での質問と回答

加工工場の10キロ圏内に大小問わず50か所を超える圃場がある。加工工場を持って六次産業をしている企業が、圃場を借り上げて生産まで担ってくれることを知ってもらうだけで、周辺の農地は自然と集積をする。それだけ農業従事者の高齢化、担い手不足が深刻化している。行政や中間管理機構の役割としては、農地の所有者の情報提供や、企業への農地あっせんなどを積極的にしていくことが重要である。

Q 中間管理機構を通じての集積だが、補助金等は活用しているのか。

ワールドファームでは補助金は全くあてにしない経営をしている。たくさんのスポンサー企業がバックにあるので補助金があるからとはならない。近年は、農業と関係のない大企業が農業進出を計画することが多く、資金は潤沢にあることが多い。大企業に関しては3通りの考えがある。

- (1) ビジネスチャンスととらえている企業
- (2) 地域貢献としてとらえている企業
- (3) 自社利用の食品としての生産拠点としてのとらえ方

農地の出し手に関しては、当然のことだが補助金を活用している農家さんが多い。

Q 君津市に関しては中山間地も多く、まとまった圃場の確保がしづらい環境にあるが進出の可能性はあるか。

君津市は条件的に良いと考えている。大消費地である都心までの交通アクセスに優れており、中山間地といっても農地集積の経験のある企業が行けば問題はないと考える。

4. 工場視察先での質問と回答

ワールドファームでは、現在は11県13か所で展開しているアグリユートピア構想を展開している。当初は農業経験がない企業だったが、農業をやるなら生産加工販売の6次産業を展開しようと創業した。しかし、農業経験が乏しいため農作物

の病気等で非常に苦勞した経験もある。農業の6次産業化は農産物の安定的な生産が確立されていないと絵に描いた餅になってしまうということで、農産物の安定的な生産が出来るよう努め、生産加工販売までの事業展開が実現したころに日経新聞でワールドファームの事業が取り上げられ注目を集めた。ワールドファームは、6次産業化農業を全国どこでもできるビジネスモデルとして確立し展開することとし、まず初めに鳥取県倉吉市と協定を結び1 haから5 haで試験栽培を開始し4年を目途に栽培面積を30 haまで増やし加工工場の建設稼働をした。そして上がった利益で新たな担い手を育てるアグリユートピア構想を今後10年で100か箇所作り、1,000人以上のプロの担い手を作り上げ、30年先の日本の農業を支える企業を目指している。ワールドファームとしては手を挙げてくれる行政を優先し進出をしていく予定である。

Q ワールドファームはどのくらいの圃場があれば進出するのか。

5a 程度でも1 haでも進出する。加工工場を建設するには周辺に圃場が30 ha程度あればすぐにできる。

Q 君津市においては、企業誘致に関し補助金制度があり、農業分野での利用が可能になっている。投下資金が1億円以上が補助対象となっているが、加工工場進出の際に行う投下資金はどの程度になるか。

カット野菜のような小さい工場で3億円程度、鳥取県のような冷凍工場に関しては11億円程度である。圃場によるが、100 ha規模の場合は生産量があるので、工場です1時間当たり1 tの加工で日量8 t、年間2,000 t程度の冷凍野菜の加工をすると1 kg 500円で計算すると10億円程度、生鮮野菜の加工の場合は1 kg 150円から250円程度になり、4億円程度の売り上げとなるので投下資金を20年で償却した場合でも十分に利益は出る。ワールドファームでは、基本的に補助金を当てにしていない。今後10年で100か所、2,000億円の計画を立てている。加工工場建設までに10億円、その他に10億円を1か所に資本投下する

ので1年間で、200億円になるが、スポンサー企業のキャッシュフローは潤沢にあるので、心配はない。今後育っていく若い担い手の方に使って欲しい。

Q 君津市における農地利用の7割が水稲として利用されているが、このような状況でも進出は可能か。

転作をすれば問題ない。秋田県では、今まで水稲をやっていた圃場にキャベツを作っている。売り先をしっかりと決めてから取り掛からないと生産した農産物の価格低迷などが起こり経営に支障をきたすことになる。カップラーメンに入っている乾燥野菜などの多くは中国産を使用しているが、既に安全な国産野菜を使用するプロジェクトが始まっており、国産野菜の使用量は今後飛躍的に伸びていく。こうした流れにしっかりと乗っていくことが必要である。国産化するために必要な条件が2点ある。

- (1) 年間を通じて出荷量を確保すること（東北から九州までの生産拠点を整備することにより条件をクリアした）
- (2) 10年20年後における生産体制の確保（若いプロの担い手の育成をすることで条件をクリアした）

Q 障害を持った方の雇用はあるか。

現在、ワールドファームでは直接の雇用はないが、別で経営している社会福祉法人で10数名雇用している。障害を持った方ではないが、長期に職についていない、いわゆるニートの方や10年以上引きこもりだった方の社会復帰のお手伝いをしている。工場に関しては、バリアフリー化を推奨している。野菜のパック詰め等農業は作業を細分化することで様々な障害があっても仕事を続けることが出来る産業である。

Q ワールドファーム進出によりJAとの間で問題はないのか。

大手食品メーカーが販売している冷凍餃子の具に中国産のニラを使用していたが、国産化プロジェクトで国内産のニラを使用することになった。1つの商品だが、年間2,000tのニラを使用するという事でワールドファームが1,000t、JAが1,000t出荷することで新たな需要を分け合うので、JAとの間でトラブルになることはない。

5. 所 感

本市では、高齢化や後継者不足、耕作放棄地、鳥獣被害の増加などで、5年後、10年後の展望が描けない地域が増えている。こうした中、行政が先頭に立って積極的に企業誘致をすることで6次産業化、農商工連携の取り組みを加速させることが求められており耕作放棄地の解消に関しても有効な施策と考える。また、地域の人と農地の問題について徹底的に話し合っ、地域の将来像を描く「人・農地プラン」を早期に策定し、持続可能な農業経営を実現するための体制を構築し、本市農業が夢と誇りの持てる産業として発展していくことを期待する。

